2011年度 国際金融論 期末試験

担当 岩村 英之

実施日 2011年7月25日

解答時間 60分

注意

- 記号を用いる場合，講義と同じ用法であれば定義しなくともよい（為替レート E_0 など）.
- 用紙（と時間）に収まる範囲で解答を作成すること．解答の順番は番号順でなくともよい.
- 5,6は講義で学んだモデルを用いて（＝講義で導入した諸仮定の下で）解答すること.
- 通貨価値の変化について,「為替レートが上がる・下がる」等の曖昧な表現を用いないこと.
- 計算問題の小数点第2位以下は切り捨ててよい.

問題

1. ある年の日本の国際収支勘定における公的外貨準備勘定が500億円の赤字になっていたとする．この年，政府・中央銀行は外国為替市場においてどのような介入を行ったと考えられるか．答えのみでよい.（5点）

2. 円＝ドル・レートが84円，ユーロ＝ドル・レートが0.7ユーロのとき，円とユーロの間の為替レートは邦貨建でいくらになるか計算しなさい．答えのみでよい.（5点）

3. ここ数カ月，ギリシアの長期金利が急上昇している．債券の利子率（正確には**複利最終利回り**あるいは**内部収益率**）の計算式を明示し，またギリシアの現状に**簡単に**触れつつ，この現象を説明しなさい．ただし,「長期金利」は国債の利子率に連動して決まると仮定する.（10点）

4. 資産の「流動性」とはどのような性質か．簡潔に説明しなさい.（10点）

5. 円建債券の利子率が0.02，ドル建債券の利子率が0.05であるとする．人々が1年後の円＝ドル・レートを84円と予想しているとき，今日の円=ドル・レートは理論的にいくらになると考えられるか，簡潔に説明しなさい.（10点）

6. 何らかの理由で人々がそれまでに比べて債券を持ちたがらなくなった（＝貨幣を持ちたがるようになった）とする．これについて，以下の問いに答えなさい.

   (a) 生産（GDP）が変化しない超短期において，利子率および為替レートにどのような変化が及ぶと考えられるか，図を用いて考察しなさい．結論だけでなく，プロセスも説明すること.（15点）

   (b) 生産（GDP）が反応する（が物価は動かない）期間を想定すると，利子率・為替レート・生産にどのような影響が出ると考えられるか，図を用いて考察しなさい．結論だけでなく，プロセスも説明すること.（15点）

   (c) 為替レートは，超短期と短期ではどちらのほうが大きく反応すると考えられるか.（10点）

   (d) このショックに政府が財政政策・金融政策で対応する場合，それぞれどのような違いがあるか説明しなさい.（10点）

7. いわゆる「為替レート制度のトリレンマ」の意味するところを簡潔に説明しなさい.（10点）